

「いちゃいばネットワーク」通信



今回は「土光敏夫信念の言葉」(PHP研究所編) よりいくつかのお話をご紹介します。

一日一日にけじめをつける

きょうという日は、すべての人にとって平等に訪れるかけがえのない一日である。自己の人生にとって初めて訪れた日であり、また決して再び訪れることのない日でもある。だから、この一日を粗末に過す人は、毎日を粗末に過し、一生を粗末に過すことに通ずる。

一日一日にけじめをつけていこう。きょうのことは、きょうやってしまおう。これは、忙しいとか暇があるとかの時間の問題ではない。志の問題である。

「あしたにしよう」という弱い心に、自ら鞭を打て。明日という日には、またあしたやるべきことが待っている。



艱難汝(かんなんなんじ)を玉にす

計画とは「将来への意思」である。将来への意思は、現在から飛躍し、無理があり、実現不可能に見えるものでなくてはならない。現在の延長線上にあり、合理的であり、実現可能な計画は、むしろ「予定」とよぶべきだろう。

将来への意思としての計画は、困難を受け入れ、困難にいどみ、困難に打ち勝つモチーフを、自らのうちにもたねばならない。

計画は、自己研鑽の場を作る高い目標を掲げ、何がなんでもやりぬく強烈な意思の力によって群がる障害に耐え、隘路を乗り越える過程で、真の人間形成が行われる。艱難汝を玉にす。そして艱難を自らに課し続ける人間のみが、不断の人的成長を遂げる。

バイタリティとは

我流ではあるが、バイタリティは次のような式で表せるのではないか。

$$\text{活力} = \text{知力} \times (\text{意力} + \text{体力} + \text{速力})$$

活力は単なる馬力ではない。やはりそのベースには知力がある。知識や技術がたいせつなのは、いうまでもない。だが活力にとって、知力は必要な条件ではあるが、じゅうぶんな条件ではない。じゅうぶんな条件とは、その知力を成果として結実させる行動力である。その行動力にとって重要な要素が意力・体力・速力なのである。意力は意思・性根・やる気の源泉である。体力の重要さがみのがされているのは意外なほどだ。速力は仕事のコンテクストより、タイミングを重視する態度である。



経営者、公人として全精力を傾けて取り組まれた土光敏夫氏。いつまでも信念を貫き情熱を燃やし続けた氏の生き方に私たちも学んでいきたいものです。